



書誌と典拠で捉える知的活動

大向 一輝

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部

2

国立国会図書館サーチ「大向一輝」

つながる書誌 2.0 (2024)

3

書誌の将来像：アクセス・ポイントからターゲットへ

- 情報行動の結果として（最終的に・中間的に）アクセスされるべき地点を識別する
 - 内容自体を検索対象とする情報技術の進展
 - OCRを用いた全文テキスト化
 - 画像からの説明文生成
 - 例：次世代デジタルライブラリー
 - 人間の認知限界
 - 断片的かつ大量の検索結果を把握できない
 - コンテキストを理解するための「出版物」「出版行為」
 - 「いつ・どこで・誰が・何を」を記録するタイムスタンプ

つながる典拠 2.0 (2025)

4

人物・組織のコンテキスト

9

Web NDL Authorities	
国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス	
◀ 検索結果に戻る	
大向, 一輝	
ID	01089368
典拠種別 <small>skos:inScheme</small>	個人名
名称/タイトル <small>xi:prefLabel</small>	大向, 一輝
名称/タイトルのカナ読み <small>ndi:transcription@ja-Kana</small>	オオムカイ, イッキ
名称/タイトルのローマ字読み <small>ndi:transcription@ja-Latin</small>	Oomukai, Ikki
生年 <small>rdai:dateOfBirth</small>	1977
専攻 <small>rdai:fieldOfActivityOfThePerson</small>	情報学
経歴 <small>rdai:biographicalInformation</small>	大学教員, (有) グルコース設立
関連リンク <small>skos:exactMatch</small>	NDL01089368 (VIAF)
出典 <small>dct:source</small>	ウェブがわかる本 / 大向一輝 著 初出資料
作成日 <small>dct:created</small>	2007-06-11
最終更新日 <small>dct:modified</small>	2007-06-11T10:16:31

KAKEN

研究課題をさがす

研究者をさがす

KAKENの使い方

◀ 前のページに戻る

大向 一輝 OHMUKAI Ikki

研究者番号

30413925

その他のID

 J-GLOBAL

 researchmap

 <https://orcid.org/0000-0002-3276-3753>

外部サイト

 CiNii

所属 (現在)

2024年度: 東京大学, 大学院人文社会系研究科(文学部), 准教授

所属 (過去の研究課題情報に基づく) *注記

2020年度 - 2024年度: 東京大学, 大学院人文社会系研究科(文学部), 准教授

2019年度: 東京大学, 大学院人文社会系研究科, 准教授

2019年度: 国立情報学研究所, コンテンツ科学研究系, 准教授

2017年度: 国立情報学研究所, 大学共同利用機関等の部局等, 准教授

2016年度: 国立情報学研究所, コンテンツ科学研究系, 准教授

2015年度: 国立情報学研究所, 大学共同利用機関等の部局等, 准教授

2015年度: 国立情報学研究所, コンテンツ科学研究系, 教授

2009年度 - 2010年度: 国立情報学研究所, コンテンツ科学研究系, 准教授

2007年度 - 2008年度: 国立情報学研究所, コンテンツ科学研究系, 助教

2006年度: 国立情報学研究所, コンテンツ科学研究系, 助手

2005年度: 国立情報学研究所, 実証研究センター, 助手 ▲ 隠す

Web NDL Authorities <https://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/01089368>
 KAKEN 研究者をさがす <https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000030413925/>

つながる典拠 2.0（2025）

5

つながる典拠 2.0

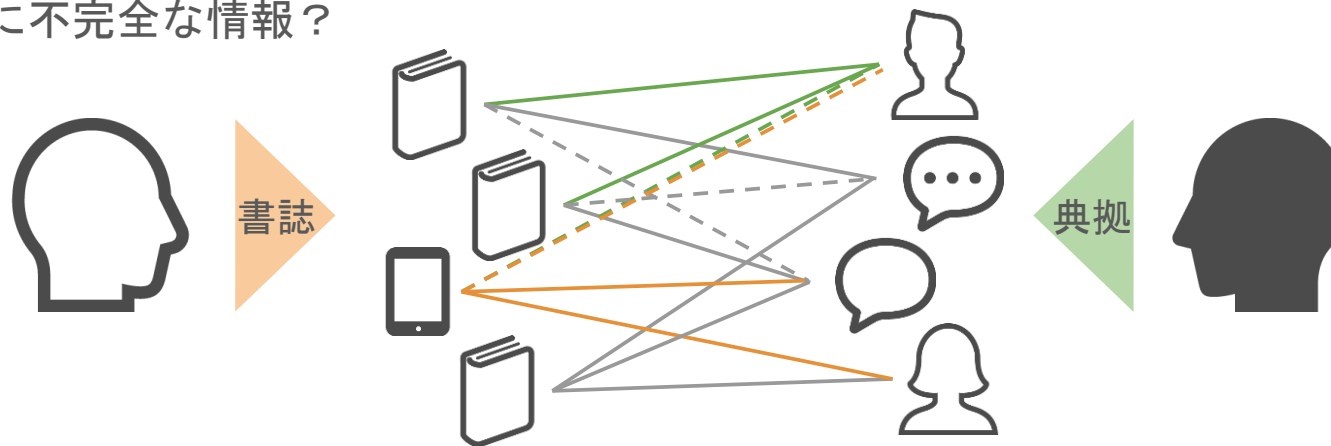
11

- 資料の結節点から社会の結節点へ
 - 分野・ジャンル・コミュニティを越境するための知識体系
 - 社会・経済活動を支える基本情報
- 変わりゆく典拠
 - タイムスタンプとしての書誌とは異なり、更新され続ける
 - コンテキストを踏まえた検索・情報提示
 - 体制と品質管理
 - （業として）更新されるデータベースとの連携
 - リンク情報の管理・定期的な確認
- 出典のない典拠
 - 他者に責任を委ねられない
 - 将来的な価値の源泉として「自ら」がつくる

書誌と典拠

6

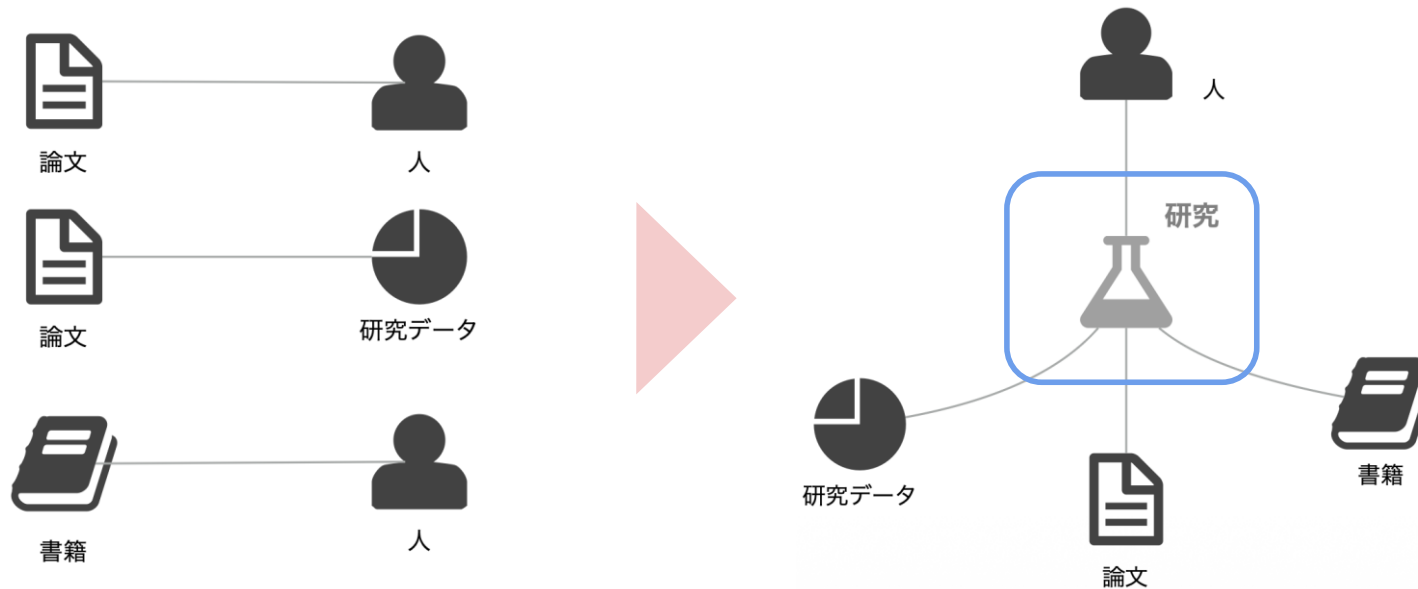
- 書誌から見た典拠
 - 具体的な出版物をまとめ上げるための（仮想的な）コンテキスト
 - 常に他のコンテキストが存在しうる
- 典拠から見た書誌
 - 具体的な人・概念の内実を説明するための（部分的な）サンプル
 - 常に他のサンプルが存在しうる
- 常に不完全な情報？



CiNii Researchの初期構想（2017）

7

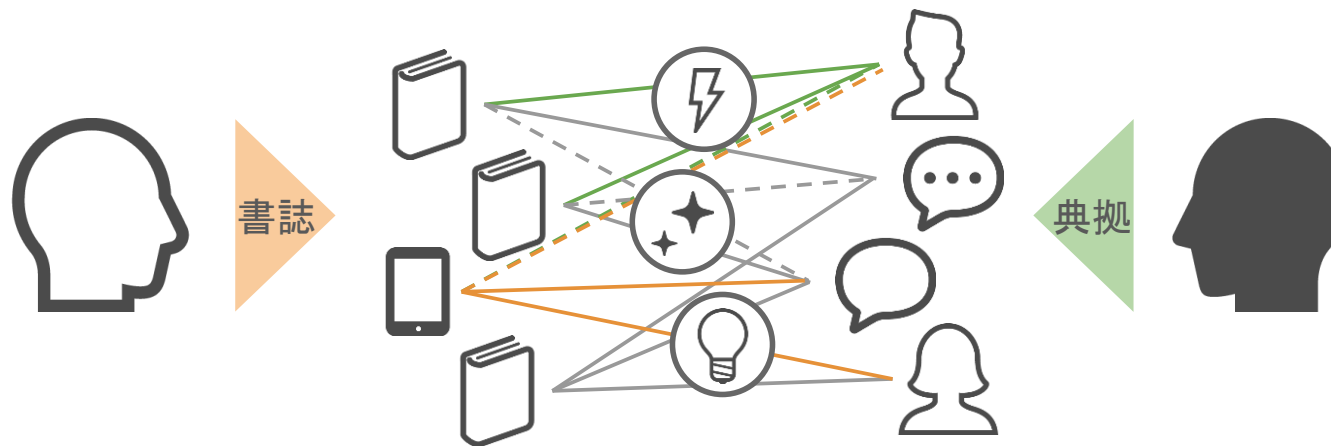
- 収録対象の拡大に対応したビジョン
 - 本質的に増大する不完全性に向き合うために
 - 「捉えられない『研究活動』を捉える」



書誌と典拠で捉える知的活動

8

- 書誌と典拠のネットワークから知的活動を浮かび上がらせる
 - 不完全な情報からでも観測可能
 - データが充実すると精度が高まる
- IFLA LRM・BIBFRAMEのWorkと同じ？
 - 認識・記述の主体性と順序
 - 「作品」と「活動」



書誌と典拠で捉える知的活動

9

- 書誌と典拠の機能分解と再構成
 - 永続するもの
 - 出版の事実、個人が個人であること...
 - ID体系の整備と管理
 - ベース・レジストリ？
 - 変化するもの
 - 出版物の管理主体、個人の活動履歴、情報組織化の観点...
 - ID間のリンク構造の類型化と管理
 - 第三者がもたらすリンク構造の把握
 - リンク構造の変化の記録
- 変化する情報に向き合い続ける組織・ワークフローとは？
 - デジタルシフトの本質
 - AI時代の信頼の源泉